ＪＴＡトピックス　２０１５年４月

日本テコンドー協会加盟

湘南テコンドー協会創立
第１回湘南テコンドー選手権大会開催決定！

２０１５年７月１２日（日）平塚総合体育館開催

２０１５年1月２８日（水）、学研ＣＡＩスクール平塚西校（塾長・佐藤賢治。初段）において
湘南テコンドー協会が創立されました。

（会長・河明生、理事・尾崎圭司、事務局長・佐藤賢治、副理事・鈴木雅弘）

同創立総会において河明生会長から第１回湘南テコンドー選手権大会開催が提起されました。
副理事・鈴木雅弘が尽力した結果、本年4月、平塚市から
２０１５年7月１２日（日）、平塚総合体育館武道場の使用許諾が得られ開催が確定しました。
あわせて河会長が神奈川県および神奈川県教育委員会へ後援申請を行っています。

ＪＴＡ湘南平塚テコンドークラブの少年少女部の活性化をはかるための大会です。
河会長による試合参加希望者のみの防具稽古・平塚セミナーを予定しています。

河明生会長談

「試合のない武道は、スポーツ武道とはいえるかも知れませんが、武道ではありません。
　試合を目的としない指導者による指導に教育効果はまったく期待できません。
　当然のことながら、試合＝実戦経験がない状態では護身にはまったく役立ちません。
　護身に役立たない技を練習する武道にいかなる意義があるのか、私にはわかりません。

　日本テコンドー協会七大精神の一つ、克己の精神の涵養の端緒は、
　己の弱さを客観的に知ることにあります。
　現代の教育環境に最も欠けているものです。

試合で負けることで己の弱さを自覚できます。悔しさを感じることも出来ます。
その上でそのまま終わるのでなく、勝つために持続的に努力する向上心を子供の頃から学ぶべきです。
親は負けた後もがんばる子供を応援すべきであると私は考えます。
将来、成長し社会にでて仕事で困難に直面した時、逃げずに立ち向かう耐性が涵養されるでしょう。

組手の試合に出場すれば、人を蹴れば痛いことがわかります。
痛さを体験すれば、むやみやたらと人を殴ったり蹴ったりすることがなくなります。
しかも強くなればなるほど、弱い後輩には手加減するという優しい心性も涵養されるはずです。

武道は球技とは異なり自分の力を試せる機会が提供されており、努力が報われる世界です。
野球やサッカー等の球技は、球を追う、打つ、蹴る等の才能とセンスの世界であり、努力してもまったく報われません。球技は自分の力を試せる機会が最も少ない世界でもあります。
現にまともな部活やクラブなら、その８割以上は試合出場どころかベンチにすら入れません。
たとえば、ＪＴＡには３年間、一度も野球の試合に出してもらえず手をぐるぐる回した門人もいます。
身体的能力は高いのに球技的には評価されず３年間、補欠だった会員もいます。
かなり著名な高校のレギュラーだったが、一度も試合に出れなかった会員もいます。
サッカーでは、かなり著名なサッカー部に在籍していた会員は、ベンチに一度も入ることを許されず３年間観客席での応援だけで終わった会員もいます。
いったいぜんたいこのような球技の現実にどういう教育効果を期待しているというのでしょうか？
コンプレックスだけを植え付けているようにしか思えてなりません。

他方、武道、とりわけ我がＪＴＡテコンドーの試合は球技とは違います。
健康である限り、本人が出たいという向上心があり、保護者がその向上心を応援するという心があれば誰でも自分の客観的な力を試すことができます。

しかし、怪我や事故は防止しなければなりません。
そこで開発されたのがテコンドーの各種防具です。
防具を着用することで安全性が高まるのです。

防具を着用するだけではいけません。
防具稽古に慣れておかなければならないのです。
湘南平塚ＴＣのやる気のある少年少女部の蹴士達に
ＪＴＡテコンドーの神髄を教えるため組手稽古防具平塚セミナーを実施したいと考えています」